



クラウド・コンピューティング環境における Oracle ソフトウェアのライセンス

本資料は、以下のベンダーが提供するクラウド・コンピューティング環境に適用されます:

**Amazon Web Services – Amazon Elastic Compute Cloud (EC2), Amazon Simple Storage Service (S3) 、
Microsoft Windows Azure Platform**

(以下、これらを「承認されたクラウド環境」と表記します)

承認されたクラウド環境における Oracle プログラムのライセンス許諾の際には、「バーチャル・コア」を「物理コア」と同等に換算してカウントする必要があります。このカウント方法は、Processor の価格単位を持つすべてのプログラムに適用されます。

製品名称に Standard Edition One もしくは Standard Edition が付くプログラムが許諾される場合、インスタンスのサイズに基づく価格設定がなされます。承認されたクラウド環境のインスタンスが 4 バーチャル・コア以下の場合、1 ソケットとしてカウントされます。承認されたクラウド環境のインスタンスが 4 バーチャル・コアを超える場合は、承認されたクラウド環境のインスタンスのバーチャル・コア数を 4 で割り、小数点以下を切上げてカウントします。

(例: 5 バーチャル・コアは、 $5 \div 4 = 1.25$ 、小数点以下 0.25 を切上げて 2 ソケットとしてカウントします。)

クラウド・コンピューティング環境では、Oracle Database Standard Edition を使用できる承認されたクラウド環境のインスタンスは、保有するバーチャル・コア数が 16 以下であることが条件となります。

クラウド・コンピューティング環境では、Oracle Database Standard Edition One を使用できる承認されたクラウド環境のインスタンスは、保有するバーチャル・コア数が 8 以下であることが条件となります。

計算例 1. Amazon EC2 環境で Oracle Database Enterprise Edition (Processor ライセンス) を許諾:

1 台の承認されたクラウド環境のインスタンスにおいて、Intel 製のマルチコア・チップで 8 バーチャル・コア保有する環境では 4 Processor ライセンスが必要です。(8 バーチャル・コア x 係数*0.5=4 Processor)
*マルチコア・プロセッサの適用係数については、Oracle Processor Core Factor Table を参照ください。

計算例 2. Amazon EC2 環境で Oracle Database Standard Edition (Processor ライセンス) を許諾:

- 1 台の承認されたクラウド環境のインスタンス (バーチャル・コア数 1 以上 4 以下を保有) では、1 ソケットとしてカウントされるため、1 Processor ライセンスが必要となります。
- 1 台の承認されたクラウド環境のインスタンス (バーチャル・コア数 5 以上 8 以下を保有) では、2 ソケットとしてカウントされるため、2 Processor ライセンスが必要となります。
- 1 台の承認されたクラウド環境のインスタンス (4 バーチャル・コア保有)、および 4 台の承認されたクラウド環境のインスタンス (各 1 バーチャル・コア保有) では、それぞれ 4 バーチャル・コアは 1 ソケット、1 バーチャル・コアは 1 ソケットとしてカウントされます。5 台のコンピュータ合計では、5 Processor のライセンスが必要となります。

また承認されたクラウド環境において、Named User Plus ライセンスを適用することができます。その際、製品によっては最少契約数の制限が適用されます。

承認されたクラウド環境において Oracle Enterprise Linux Support を使用する際は、各承認されたクラウド環境のインスタンスが「System」としてカウントされます。Enterprise Linux Basic Limited と Enterprise Linux Premier Limited のサポート提供については、承認されたクラウド環境のインスタンスが保有するバーチャル・コア数が 8 以下であることが条件となります。

Oracle Corporation 発行「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」の翻訳版です。(2013年7月26日更新)

本文書は、オラクル・ライセンスのポリシーに関するガイドラインを教育目的に限って提供するものです。本文書は、いかなる契約にも組み込まれるものではなく、特定の条件に対する約定や約束を構成するものでもありません。ポリシー及び本文書は予告なく変更される場合があります。本文書は日本オラクル株式会社の書面による明示的な許諾なく、いかなる方法においても転載することは許されておりません。

日本オラクル株式会社

EC2 環境における Oracle VM のライセンス許諾: Amazon は、[Oracle の Partitioning ポリシー](#)から参照されている Oracle ポリシー・ドキュメント「[Hard Partitioning with Oracle VM](#)」に定義された規則に則って、Oracle VM EC2 コンピュータを実装しています。本文書は、承認されたクラウド環境のインスタンス内のバーチャル・プロセッサに、バックエンド・サーバー上で特定の物理コアに割り当てることを保証しています。Oracle 製品のライセンス許諾の観点から見れば、各バーチャル・プロセッサを物理コアと同等に換算するため、Oracle 標準の価格単位 Processor に即しています。

数量無制限使用プログラム(ULA) により取得されたライセンスは、承認されたクラウド環境で使用しても構いませんが、それらのライセンスを証明書 of ULA 条項の末尾に含めることはできません。

上記の例は、単に例示を目的とするものです。

Oracle Corporation 発行「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」の翻訳版です。(2013年7月26日更新)

本文書は、オラクル・ライセンスのポリシーに関するガイドラインを教育目的に限って提供するものです。本文書は、いかなる契約にも組み込まれるものではなく、特定の条件に対する約定や約束を構成するものでもありません。ポリシー及び本文書は予告なく変更される場合があります。本文書は日本オラクル株式会社の書面による明示的な許諾なく、いかなる方法においても転載することは許されておりません。

日本オラクル株式会社